

第3回（仮称）松江市幼児教育ビジョン検討委員会 会議録

1. 日 時 令和5年12月21日（木） 14時30分～16時30分

2. 場 所 島根県市町村振興センター6階 大会議室2

3. 出席者

（1）委員（12名中、出席者9名）

高橋泰道委員長、浅野美和子委員、大西大和委員、国頭正久委員、佐藤淳委員、
永島千津子委員、日野智子委員、横田航平委員、吉川悟司委員

（2）事務局

【教育委員会】

（学校教育課）後藤幸広課長、金山剛志教育指導官

（発達・教育相談支援センター）山本勉所長、堀江佐智子指導主事

【市民部】（人権男女共同参画課）村上幸人教育指導官

【こども子育て部】青木佳子部長、桑原賢司次長（こども政策課長）、

（こども家庭支援課）峯彰子課長

（こども政策課）澤田真理子保育指導官、林縫子安心子育て係長、竹内敦子主幹、

秦昌子副主任保育専門員、福頼美恵子副主任保育専門員

4. 傍聴者数 0名（報道関係者除く）

5. 次 第

（1）開会

（2）議題

「（仮称）松江市幼児教育ビジョン」に掲載する内容について

（3）閉会

6. 会議経過

（1）開会

（2）議事

1 第2回「（仮称）幼児教育ビジョン検討委員会」の意見対応について

事務局より、第2回（仮称）松江市幼児教育ビジョン検討委員会に提示した素案に対する意見
に対しての対応についての説明を行い、その後委員から意見を伺った。

（委員からの意見）

【大西委員】

最初に比べ、全体的にとっても見やすく統一感がでた。今後業者が入り、もっとスリムに見やすくなれば、現場と地域、行政と連携して、共有するものができるのではないかと楽しみにしている。また、

令和 6 年度 7 年度と中長期的なスケジュールを聞くことができ、この委員会を通し今後現場の意見も吸い上げていく中で気付くこともあると思われ、今後もっともっといいものができていくのではないかとわくわくするようになった。

【高橋委員長】

今の発言では、今回だけではなく長期的にさらにこれをいかに広げていくのかというような肯定的な意見と受け止めさせていただいた。他にあるか。

【佐藤委員】

非常に整理されて読みやすくなったと思いながら読ませていただいた。一方で、これが保育者・施設者向けになったという整理の基に現場の人に聞いてみたいのだが、これを現場の保育者が見て「よしやるぞ」とやる気をもてるのかどうかを聞いてみたい。いかがか。それが一番大事なような気がする。

【高橋委員長】

委員の方、意見をお願いしたい。

【国頭委員】

見やすい形でまとめられていると思うが全体的にやはりかたい印象があり、これを読んで「頑張るぞ」というわくわくする感覚はあまりないのではないのかというのが素直な意見だ。しかし、読み込んでいけば、非常に腑に落ちる内容になっていると思う。

【浅野委員】

保母が保育士になり、保育所（園）が幼児教育施設と呼ばれるようになり、さらに指針において 10 の姿が示されるようになった。「今まであるいは今やっていることが幼児教育のひとつである」と言われて今教育・保育をやっている現状である。ビジョンの内容はベテランの保育者にとってはとても当たり前に見える部分もあるが、日々自分達の行っている教育・保育が 10 の姿のこれにつながっているということの確認になる。そして若い保育者にとっては、日々の保育の「子どものこういった姿が 10 の姿のどこにつながっているのか」「0 歳児の保育の中に幼児教育の一番の基礎がある」「そこから学びが始まっている」等ということが、読んだり見たりしてわかりやすい内容になっている。文字が多いという部分はあるが、保育の質の向上を考えれば「これを 1 つの教科書にして学んでいこう」と伝えたいと思ったり、1 つのきっかけになったりしてよいと思う。

【永島委員】

本当にとてもわかりやすくまとめられたなと思う。ページ割が見やすく、写真が載せてあることでより雰囲気伝わってくる。また、P33 以降のところは、統一した行動指針という項目がたてられ、統一したまとめ方がしており、園所において何を視点に取り組めばよいのかということが非常にわかりやすく書かれている。今後これをどう活用していくかが重要であり、保育者が手に取って見ながら

いろいろな計画をたてたり、活動を考えたりできる、バイブル的な物になるように工夫をしていかなければいけないと思う。

【高橋委員長】

カラー写真があることで実感がわく。この保育エピソードのところだけ見ても「何歳児ではこのようなイメージを抱けばよい」等と学ぶところがある。

【佐藤委員】

以前保育所（園）は、ケアアンドエデュケーションのケアの方を大事にしていたところであったが、指針が変わりエデュケーションを大事にするということに変わった。そのような中、新しい取り組みを行うためには今の業務をスクラップしてその中で新しいものに取り組みなければならない。今回示すことになるビジョンが大事であるという話はとてもよくわかるが、現場が「また新しいものがきた」というようなイメージをもたないよう、管理職がうまくビジョンについて伝えていかないと、このビジョンの活用が実現しづらいものになってしまうのではないかと危惧している。

【日野委員】

松江市として目指すものというところが P6 のところで1番から6番として項目だてられ、その項目ごとに P33～P37 で詳しく説明がありとても読みやすい。また、子どもの育ちに必要なのが、P6 にあげられている項目を見るだけでも捉えやすく、広く考えることができる。保育現場では、園のカリキュラムや自分の担当しているクラスの年間計画等を大事にしながら保育を組み立てていくが、今担任している子どものことだけではなく、今自身がしている保育が将来的にどういうことにつながっていくのか、外部との連携の大切さ等についても考えるのではないかと感じている。そして園内研修や自身の保育を俯瞰して見る時に「どういうことが幼児教育保育に必要なのか」「何を大事にして自分は保育をしていくといいのか」という指標を見つける時に活用できる資料だと思った。

【高橋委員長】

今後の課題ということで、このビジョンができて終わりではなくて、これを使っていかに松江市の幼児教育を高めていくのか、いかに長期的に広め、活用していかなければならないのかということについてのご助言をいただいた。できれば養成施設にも、このようなビジョンがあれば、現場に入る前から活用していけるのではないかと感じた。

それでは、ビジョン構想図は後で協議することとし、ⅠからⅡまでのところで何かあるか。

【大西委員】

保育エピソードにおいて写真の日付があるものは削除することで、5年後にカリキュラムを見た場合にも古さを感じることなく活用することができるのではないかと考える。

【高橋委員長】

Ⅲのところでは何かあるか。

【佐藤委員】

保育エピソードにおいて、0 歳、1 歳、2 歳児の場合は生活している中でこれが教育に類すると思われるところを保育者が取り上げて行うため、こういったエピソードの記載の仕方になると考えられる一方で、3 歳、4 歳、5 歳児になるとある程度ねらいをもって単元というのか指導計画を組んで保育を行うと思われる。そのため、特に若い保育者にとってはそういった記載がいるのではないかと思いながら具体例を読んだ。そのあたりはどうか。

【高橋委員長】

テーマ的なもので、ある程度の期間で続いていく保育、というようなことの記載について、事務局の方では何か考えているか。

【事務局】

当初は実践事例を載せることを考えた。しかし今回は 1 年目ということもあり、子どもの姿を見る時の見方、10 の姿につながる子どもの姿等、保育エピソードの中から学んでいくというのが一番わかりやすいと考えこの形で記載をした。

【高橋委員長】

保育の中で今ドキュメンテーションというものがあり、1 場面を取ってその子どもの姿、事実、背景、そこで育つもの、保育者の関わりを見ていき、2 日 3 日と続いていき 1 つのストーリーになっていくという、一場面の子どもたちの様子をしっかりと見ていくということで、今回このような保育エピソードの形になっているのではないかと考えている。どうか。

【佐藤委員】

理解した。そして今回このデータを印刷会社にだすと PDF にしてもらえと思うが、PDF にリンクをはったような形式がある。もしこの形式が金銭的に安くできるのであれば、印刷して配布するよりも全員に行き届くのではないか。

【高橋委員長】

今後可能ならば園に 1 冊ということだけでなく、保育者一人一人がビジョンを手にすることができればより活用できるのではないか、という提案であった。長期的に考えていてもらいたい。

この他、カリキュラムについて意見はあるか。

【永島委員】

園所に保育エピソードを依頼し、いろいろな意図があって今回これらを選ばれた。たくさんある中で、この年齢でなぜこの事例を選ばれたのか、3 つの力につながる項目で選んだのか、10 の姿をなるべく網羅するようなものを選んだのか等、選別の意図を教えてほしい。

【事務局】

子どもの姿を見る時のポイントとなる見方や年齢別カリキュラムの内容を含んだエピソード、そして、子どもの経験を豊かにしてもらえるような、保育の内容を工夫してもらうためのヒントとなるようなエピソード等を選んだ。

【高橋委員長】

このビジョンが独り歩きしないよう今後研修等を行い、しっかりと意図を伝えていく必要がある。

【横田委員】

職業柄、今回子どもの「かしこい体」に焦点をあてて読ませてもらった。私はこれまで保育者向けに運動指導の研修をしてきたが、指導の際に「幼児期運動指針」を基に話をしている。この「幼児期運動指針」と年齢別カリキュラムを照らし合わせた時、2点気になる点があった。

1 点目は、年齢別カリキュラムでは 5 歳児の健やかな育ちの姿のところに「いろいろな道具を使い細かい操作ができるようになる」と記載されているが、「幼児期運動指針」ではむしろ 4 歳に記載されており齟齬を感じた。一方で 5 歳児には何を求められているのかということ「様々なルールを用いた遊び」「少し複雑な運動」が求められている。経験上 4 歳児は様々な用具を用いた運動を行っていいと考え、5 歳児は様々なルールを設定した遊びを取り入れてもよいと考える。

2 点目は、3 歳、4 歳、5 歳にあてはまると思うが、「幼児期運動指針」では「1 日 1 時間以上遊ぶ時間を設けましょう」「体を動かす遊ぶ時間を設けましょう」と記載されている。非常に納得する考えであり、子どもが様々な運動に取り組む機会を創出するという意味で、1 日 1 時間以上の量的な部分を確保するというのが、園所や家庭において大切にしたいことの中に入ってくると非常によいのではないか。

【高橋委員長】

事務局の方いかがか。

【事務局】

ぜひ取り入れていきたい部分である。

【高橋委員長】

時間的な部分は組み込める年齢より、そして 1 点目についても検討いただきたい。

【佐藤委員】

5 歳児のカリキュラムの支援のポイントの部分だけに「毎日の生活の場でしっかり体を動かし健康でしなやかな心と体づくりを行う」ということが書かれているため、他年齢も考慮いただきたい。そして、同じく 5 歳児のカリキュラムの部分で「なかまとともに考える『それいいね』」というタイトルがついていて非常にいいと感じた。小学校に上がる時にはぜひこういった力をつけてきて欲しい。

そして各年齢で特に大事なことにに関して、印を付けるとか、色を付けるとか、太字にするとか、そ

ういったことは考えられないか。小学校の学習では発達段階を繰り広げていくというふうな展開をしていく。そういったことがもしこのカリキュラムの中に入れていけるのであれば、この会でいろいろな意見を取り入れていけるのではないかと思った。

【高橋委員長】

支援のポイントのところかと思う。事務局は何か考えがあるのか。

【事務局】

意見をいただいたことについては検討する。

【高橋委員長】

ビジョンをよりよくしていくための発言と受け止めた。検討いただきたい。

吉川委員、年齢別カリキュラムの中で家庭において大切にしたいことという部分が「～しましょう」という書き方から、保育者が家庭に伝えていきたい内容ということになったがどうか。

【吉川委員】

「～しましょう」という書き方でなくなった分、内容がずっと入ってくるようになった。このカリキュラムを読んで「確かに自分の子どもはこういうふう to 成長してきた」というのがわかりやすく、感じるところもある。

【高橋委員長】

保護者の意見として伺った。次に P33～P37 の部分についてはどうか。

【佐藤委員】

P37 の幼児教育と小学校教育との連携・接続のところだが、最初のところに小一プロブレムの問題から接続カリキュラムを作成したというふう to 書かれているが、平成 25 年度のままでの記載でよいのか。幼小の連携接続は小一プロブレムの解消のためにやり始めたのかもしれないが、今現在も市教委、福祉部局の認識としてはそこをねらっているというふう to 読めなくもない。いかがか。

【事務局】

松江市保幼小接続カリキュラムの中の記載をそのまま最初に挙げた。しかし、小一プロブレムの解消というだけではなく、保育所幼稚園からの円滑な接続、学習に向かうための基盤づくりということから接続カリキュラムを作成することになった経緯もあり、この部分については検討する。

【高橋委員長】

スタートカリキュラムも今第 3 ステップへと入っていき、安心・安全だけではなく学びの連続性等の部分も入っている。接続期に関しても、もともとは小一プロブレムの解消だったかもしれないが、次のステップに移っているはずである。言葉のところを検討願いたい。その他はないか。

【日野委員】

先ほど、松江市として目指すものというところが、P6 のところで1 番から 6 番として項目だてられており、その項目ごとに P33～P37 で詳しく説明され読みやすいと話した。項目 6「幼児教育と小学校教育との連携・接続では小学校という言葉が具体的に挙がってきている。近年小学校との連携が大切ということで多くの研修をし、考える場を設け、実践をしている。その中で、小学校と園所、お互いの相互理解が必要ではないかと思っている。そう考えた時、P2「策定の目的」P6「目指す幼児教育・保育について」の文書の中で小学校が関係機関の中に入れられてしまっているため、関係機関の前に小学校という文言が入ってほしいと思った。

【高橋委員長】

事務局どうか。

【事務局】

「その文言を入れることで意識できる」と考えると、入れてもよいのではないかと考える。検討する。

【高橋委員長】

P3「策定の目的」の 3 つ目に「松江市保幼小接続カリキュラム」という言葉はあるが、それだけではなく、「策定の目的」の 1 つ目のところの関係機関等の箇所において、保幼から小学校へつながっていくということを意識し、小学校と入れていくべきではないかということと受け止めた。

この他 P33～P37 に関してどうか。また何かあれば伺う。

2 新ビジョン構想図について

事務局より新ビジョン構想図についての説明を行い、その後委員から意見を伺った。

(委員からの意見)

【佐藤委員】

レイアウト的に「育ちをつなぐカリキュラム」が一番上の保育所（園）・幼稚（保）園・認定こども園、質の高い教育・保育の下にあるほうがよいのではないか。一人一人の人権を大切にする関わりは一番下の人権教育、安心・安全な環境の近くにある方がよいのではないか。なるべく近いところに関係性が近いものがある方がよい。大西委員どうか。

【大西委員】

今とても見やすくなったので、さらに集約するというのは佐藤委員が言われるようによいと考える。自然と見てこの構想図が刷り込まれるくらいのことを考えれば、これは園所の玄関に貼っておいてもよいのではないかと考えている。

【高橋委員長】

他に意見はないか。

【永島委員】

保育施設の中に家庭があるのか。この図をどう見るとよいのか。保育施設は赤か。

【事務局】

そうである。子どもを中心として、子どもを一番近くで支えるのが家庭・養育者であり、それを支えるのが施設、それを支えるのが地域・関係機関、というイメージである。

【永島委員】

今の説明を聞いて理解した。家庭を支えるのが施設ということと受け止めた。ただ私のように、園の中に家庭が入っていると思う人がいるのではないか。そして矢印で安心・信頼とあるが、家庭から園に対してということか。

【事務局】

どちらに対しても矢印は向かっている。

【永島委員】

両方向の矢印が大事だということだ。まんなかにあるのか。

【事務局】

そうである。

【永島委員】

「豊かな体験と遊びの充実」というのは家庭の中にあるのか。

【事務局】

子どもに対することだ。

【永島委員】

今疑問に思ったところは、樁の構想図の方がわかりやすい。

【国頭委員】

この図の名称が松江市幼児教育ビジョン構想図となっているのがとてもわかりにくい。そして構想図を見ても「子ども」という言葉が一言も入っていない。構想図の名称自体に「子ども」を入れてないといわにくい。

【高橋委員長】

確かにそうだ。仮称の名前がそのまま構想図の名前になっている。事務局、先ほど挙げた「子ども」という部分についてはどうか。

【事務局】

わかりやすい方がよいと考える。記載していった方がよいかもしれないと考えた。検討する。

【高橋委員長】

永島委員、「豊かな体験と遊びの充実」のところが家庭、子どもと同じ黄色になっているためわかりにくいと考える。子ども 2 人の部分の色が変われば「豊かな体験と遊びの充実」が子どもに対してということがわかるのではないかと考える。やはり樁の方がわかりやすいか。

【永島委員】

樁にはこだわらない。委員の皆さんはこの構想図でわかるのか伺いたい。

【横田委員】

私も保育所（園）・こども園が家庭を包括していると受け取った。

【浅野委員】

子どもが中心にいて、子どもは家庭で育てられるのだが子どもは家庭だけではなく所園や地域等いろいろな人と関わりあって育っていく。そう考えるとこのように重なり合うのではないかと考えられるが、わかりにくいと言えばそのようにも感じられる。

ただ、松江らしさという意味では樁であってもよいと思う。

【大西委員】

「こどもまんなか」という目線でこれは作られていると考えると成立していると思う。子ども目線ということを考えてよいと思う。ただ、高橋委員長が言われたように家庭の部分の黄色と子どもの部分の黄色が同じであるため、その部分を入れ替えると見方が変わると思う。

【高橋委員長】

構想図の下で「こどもをまんなかにして…」等説明をしていくことで、構想図の示す意味を補完していけると考える。永島委員どうか。

【永島委員】

子ども目線と言われ「なるほど」と思った。緑のところにある教育・保育機関が示すものは何か。

【事務局】

教育・保育機関とは小学校そして他園を示している。

【永島委員】

理解した。赤で示されている保育所（園）幼稚（保）園・認定こども園は、今在籍している園ということか。

【事務局】

そうである。色に関しては椿をイメージしている。意見を受け、家庭の部分を保護者・養育者とし、中心を子どもとし、それぞれ文言を入れてはどうかと考えた。

【高橋委員長】

いずれにしてもやはり構想図の下で説明をする必要がある。

【佐藤委員】

私も入学説明会等はこれに類似した図をよく使うため、個人的にはこの構想図は非常によくわかる。しかし、この図がビジョンの冊子に合っているかという点、それはまた別だと考える。

今回このビジョンが保育者向けということになり、保育者に特化した形ということであれば、おそらく中心はカリキュラムになる。つまり、P8Ⅲの「育ちをつなぐカリキュラム」が中心となり、それがよくわかるような構想図が必要ではないかと思う。そのような構想図があると「なるほど子どもをまんまかにして育てていくのだが、園所ではカリキュラムに沿ってこのような保育をしていこう」と述べていくと、保育者はわかりやすいのではないか。

このビジョンの上位概念となるような何かがあるのであれば、その上位概念の中にこの構想図を表しているようなものがあるならば、それをもってくるという考えもある。

【高橋委員長】

別の視点がでてきた。ただ、もともとは「松江市教育大綱」があり「あり方計画」があり、そこからおりてきてこのビジョンがある。事務局、先ほどの意見に対してはどうか。

【事務局】

どこに目線をもっていくかによって変わると考える。検討する。

【高橋委員長】

構想図については最終的に事務局で検討し、次の会議の実施が難しいようであれば、各委員の意見を仰ぐ形でお願いしたい。いずれにせよ、先ほど意見に挙がった「育ちをつなぐカリキュラム」が上にきて「一人一人の人権を大切にする関わりが下にくる」といったような位置を変えていく部分は修正いただきたい。

3 タイトル・副題について

事務局よりタイトル案を 2 個、副題案を 3 個提示し、それぞれについての説明を行い、その後委員から意見を伺った。

(委員からの意見)

【大西委員】

カリキュラムではなくビジョンとし、いろいろな解釈ができるようにする方がよい。

【佐藤委員】

私たちが言うよりも、保育者の皆さんが一番よいものを選ばれる方がよいと考える。

【日野委員】

カリキュラムといった場合、その年齢発達のところも含まれるため、より広い視野で捉えられるよう、タイトルはビジョンの方がよい。

【高橋委員長】

保護者の立場からはどうか。

【吉川委員】

「こどもまんなか」と言われているので、「松江市幼児教育こどもまんなかビジョン」の方がよいのではないか。

【国頭委員】

カリキュラムというどうしても教育課程とか、かなり限定的な意味合いに捉えられる。しかしビジョンとすると全体的な見通しというような雰囲気があるのでよいのではないか。そして先ほどの意見のように「こどもまんなか」が入ってもよいと感じる。

【浅野委員】

カリキュラムという言葉より、ビジョンの方が現場の保育者にもわかりやすくよいと感じる。

【永島委員】

今ある接続カリキュラムをまだ活かしていきたい思いがある。そう考えると、カリキュラムとするとわかりにくいため、ビジョンの方が夢がありよい。

【横田委員】

ビジョンに 1 票だが「こどもまんなか」もよいと思う。

【高橋委員長】

大勢が「幼児教育ビジョン」、そしてその前に「(こどもまんなか)があったほうがよい」という意見でまとめさせていただく。

続いて副題についてだが、1と3には「共に」という文言が入っている。1は「共に築き、共に育む 松江の子どもたちの夢と希望を支える幼児教育」、2は「健やかなところとからだを育むために」、3は「共有・共感・共育 共に育てる子どもの未来」。このように3つあがっているがいかがか。

【国頭委員】

今回、この幼児教育ビジョンは保育者及び施設向けという形になっているが、私達の願いとしては、すべての人に子育てに関わっていただきたいという思いがある。そういう中ではやはり「共に」という言葉をキーワードにしてもらいたい思いがある。また「松江」という言葉もやはり入った方がよい。そういった意味では、1と3を合わせたようなバランスが取れたような言葉があるとよいと考える。

ただ「共に」をキーワードにした時に、幼児教育ビジョンの中身との整合性がどうなのかと気になるところではある。検討いただきたい。

【大西委員】

本当に現場の意見が一番だと思うので、国頭委員が言われる、保育現場が望むことがよいというのが1つ思うところである。

個人的な意見としては、中身の整合性からすると1、音の心地よさからすると2。その前の主題と副題のバランスだったり、ずっと美しく読めたりするのは2であり、内容的に考えると1ではないかと思う。1と2の間があればよいが、そうするとまた悩むところである。非常に難しく、答えがだせない。

【佐藤委員】

松江市の総合教育計画は「DREAMS from MATSUE～ふるさと松江から、夢を実現し未来を切り拓く～」であるため1ではないか。

【日野委員】

松江の子ども達の夢や希望、未来というような言葉がキーワードで入っていると嬉しい。

【吉川委員】

1が一番ずっと入ってくる。「松江」という言葉が入っているのがやはりよい。

【浅野委員】

どれもずっと入ってきた。そして3の「共有」「共感」の次の「共育」が、こういう「共育」があるんだと思った。しかし「松江市の幼児教育」「松江の子ども達をみんなで育てていく」というところ、「松江」という言葉が入り「子ども」という言葉が入っているというところでは1がよい。ただ3を考えられた方はすごいと思う。

【永島委員】

1 がよい。保護者と共にそして地域と共に、それから学校ともつながって、関係機関ともつながって、そして松江市の実態であるようなたくさんの教育・保育施設が横のつながりをしっかりもって一緒にやっていくんだという意味で、「共に築き、共に育む」という言葉がある。そして「夢」「希望」という言葉が素敵だと思うので1が一番よいと思う。

【横田委員】

2 がずっと入ってきてわかりやすくいいのではないかと思った。

ただやはり、松江市の幼児教育・保育で大切にしたい内容を見返すと、子ども一人一人の人権、いろいろな人との関わり、地域・自然環境・伝統文化等とのふれあい、個に応じた支援、幼児教育と小学校教育との連携等があり、このことを考えると、確かに「共に」という言葉がキーワードになってくるのではないかと感じた。また「松江」という言葉も入れたいと思い、1 がよいとする。

【高橋委員長】

全体の意見を考慮すると、1 はこのままいいでよいのか。

ただ「幼児教育」というのが最後についており、タイトルにも「幼児教育」という言葉がついてるのでここが気になる。1 を中心として検討して、サブタイトルを決めていくこととする。事務局の方、それでよろしいか。

【事務局】

ご意見ありがとうございます。

【高橋委員長】

議題にあがっていたものについては全て検討をしたが、全体を通して素案、構想図、タイトル、副題のことについて何か言い残したことがあれば意見をお願いしたい。

【大西委員】

素案で使用されているフリー素材を使ってしまうと、できあがった物が安っぽい物に見えてしまう。フリー素材はなるべく使わないでいただきたい。

【高橋委員長】

事務局の方、お願いする。

4 今後の進め方について

前回検討委員会を3回開催から4回開催にしたい旨の提案を行い、委員から了承を得られた。しかし、今回の協議内容から、今回挙げた意見については委員長と事務局で修正することで調整可能であると判断し、当初の予定通り3回開催とする旨の説明をし、委員から了承を得ら

れた。

(その他)

- ・ 今回の素案を修正後、修正した素案を委員の方宛てに送付して確認いただく。
- ・ 並行してパブリックコメントを行うが、パブリックコメントで意見がでた場合、その意見を取り入れ再構成を行う。この再構成の素案も、委員の方に確認いただく。

(3) 閉会